

今なぜ、河井継之助なのか――。

いま、なぜ、河井継之助なのかと思うと、なんだか胸がワクワクしてくる。幕末の長岡藩の、それもたかだか百二十石取りの子どもが、封建の枠にとらわれない思うままの生き方、死に方をする。自由な発想もする。面白い男だ。

その反面、道理だとか義理も大切にする。弱い者の味方。強い者、大きいチームに思い切りぶつかっていく勇氣がある。今の世は、管理社会。思い切り個性を正して生きようとすれば角が立つ。

ところが、この河井継之助の人間の魅力を知れば、君もあなたも、今を生きる元氣がもたらえる。

日本の精神とは、越後長岡の常在戦場の精神とは、米百俵の精神、互尊独尊の精神が、越後の長岡にある。戊辰戦争、長岡空襲、中越地震からの復活の歴史がある。

司馬遼太郎の代表作『峠』からうかがうに運命の負に甘受し、最期は武士であろうとした河井継之助に共鳴するなら、河井継之助が生まれ育った場所にできた河井継之助記念館においてください。

河井継之助記念館

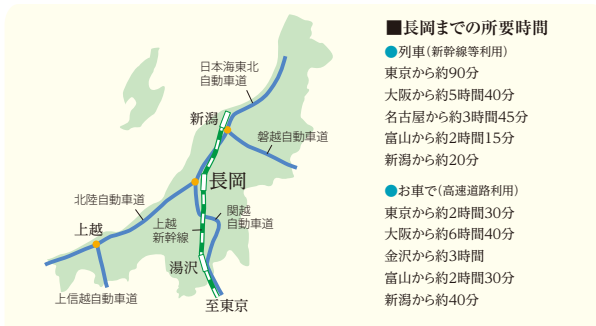


おもかげの庭に、蒼龍の双樹と石灯籠が見える。



平成二十年春に制作した
風雲 蒼龍 河井継之助像
峰村哲也作

◆アクセス



◆利用案内

●開館時間	10:00~17:00(16:30まで入館可能)
●休館日	毎週火曜日(祝日の場合は翌平日) 12月29日~翌年1月3日 (臨時休館させていただくことがあります)
●観覧料	◎大人……………個人200円(団体160円) ◎高校生・大学生・障害者手帳をお持ちの方は割引になります・介助者……………個人150円(団体120円) ◎小・中学生…個人100円(団体80円)

河井継之助記念館 〒940-0053 新潟県長岡市長町1丁目甲1675-1
TEL.0258-30-1525 FAX.0258-30-1526

◆インターネット・ホームページは… <https://tsuginosuke.net/>

さまざまな改革を行って一人ひとりが個性と能力を発揮する
豊かな社会をつくらうとした人物

河井継之助記念館

玉蘭書房 謹啓

越後長岡藩 幕末ミュージアム

現代人は、学べ！ 本当の武士道

— なくてはならぬ人となれ —

人間としての覚悟から、自我にめぐめ
自己の役割を覚える。

地下百尺底の心を以て、世に立ち事に当れり。
良知・知行合一・格物致知を問う。

人の世に生きていくということは、苦しいことも、うれしいことも
いろいろあるものだ。その苦しいことに耐えなければ、何ごとも
成し遂げられない。

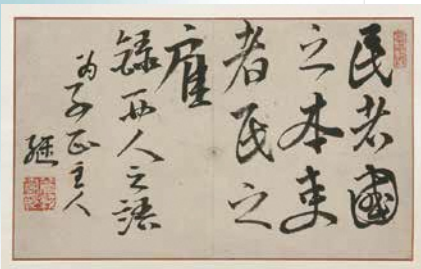
(幕末の日本、越後長岡藩が輩出した風雲児・河井継之助の生涯
をたどれば、彼のめざした改革と社会がわかる)

風雲の武士

幕末という大空^{たいくう}を駆け抜けた
越後の龍



河井継之助像のエスキス
(峰村哲也画)



河井継之助の政治信条
たみ もと り やい
民は国の本、吏は民の雇



安政6年(西暦1859年)33歳の継之助は西国遊歴の旅にでる。
その旅で、継之助は何を学んだのか。旅日記「塵壺」を展示。

展示品/軍扇(河井継之助使用)
直筆の書幅・書簡
司馬遼太郎著『峠』の原稿 他

河井継之助の言葉

学問というものは、実行しなければ、何の役にも立たないものである。

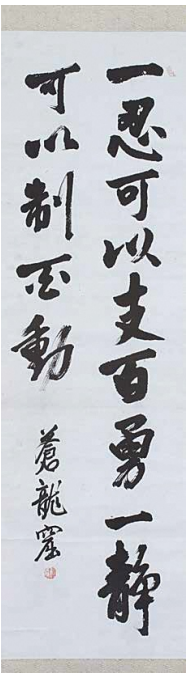
英雄の気質を備えているものほど、なおいっそう危険にあうものだ。

法や制度は清廉で能力のある人がいて、始めてその成果が出るものだ。
人を得ずして法だけがあるのは、かえって危険である。

無理には使わず、快く承知をさせて、使うものも使われるものも、互い
に愉快に仕事をするのが得。

従者の外山脩造(寅太)に

この世の中は大変に面白くなってきた。寅や、何でもこれからのことは
商人が早道だ。思い切って商人になりやい。



戦略は我心にありとした箴言